

# 人口増が続くなか

# 議員定数の削減

# → 市民の利益と言えず



三日月知事に予算要望する藤井みえ子市議(右から3人目)

## 議会改革推進特別委員会

## 視察研修に参加して

篠原とも子

2月2日、議会改革特別委員会の研修に参加しました。

テーマは議員定数の削減と議員報酬。

午前は富田林市議会。現在、平成22年から定数1名減で19人。午後は河内長野市議会。平成21年より18名。どちらの市

も人口規模はほぼ草津市と変わらない自治体ですが、歴史背景はそれぞれ違います。

説明を受けた後の意見交換を踏まえての感想は、参加者みんな同じだったのではないのでしょうか。

①市民から議員削減請願を受けた河内長野市で

も、結果市民の意見が届きにくくなったとの声がある。

②議員定数の上限が撤廃されたが、定数は何人が理想的なのかの議論はされていない。

③経費削減というが、議会費は市財政の数パーセントであつて、その削減が市民の利益につながったのか疑問である。行政に対する議会のチェ

ック機能の後退こそ、市民に対し不利益をもたらす。

④市会議員選挙では、定数減により、立候補者数が少なくなった。

⑤議員報酬は両市とも草津市より高いが、これは議員提案によるものではなく、報酬審議会の建議によるもの。

⑥議会事務局の体制強化という点についても、議員定数減により、事務局職員も削減となったことなど、定数削減は、行政をチェックする議会事務局機能の大幅後退につながった。

で、私の所感は議員定数削減には何一つ論拠を見いだせませんでした。

草津市では人口は2.5倍化していますが議員は増えていません。各議員が、2.5倍化した市民とどう結びつき、市民の声をしっかりと汲みあげることに、いま議会に求められている課題だと感じました。

## 習志野市と和光市 視察研修に参加

久保秋雄



総務常任委員

1月26・27日に千葉県習志野市の公会計改革と、埼玉県和光市の健全な財政運営をテーマにした総務常任委員会視察研修に参加。

習志野市では、総務省がすすめている「公会計改革」に対して、先進的な取り組みがおこなわれており、公共施設などストック資産を、複式簿記導入により正確に把握しようというもの。自治体の財務状況をより完全に比較可能な形で把握できますが、国から見て自治体管理の側面もあると感じました。一方、和光市は「健全な財政運営」をすすめる「理念」条例を制定しています。草津市でも中心市街地活性化など大型事業が目白押しになっており、事業の展開にもなっており、事業費が大幅に膨れ上がる傾向も顕著になり、財務状況のしっかりした把握と、事業の精査が重要になっています。

## 市の管理する建設時期不明 橋梁 (全長2メートル以上)

## 調査が進展

昨年9月定例会の決算委員会において、市が管理する橋梁のうち、建設時期が不明の橋梁が449橋中、338橋(75%)に上っていることが、党議員団の質疑で明らかにとなり、議員団は調査の徹底と対応を求めました。

今年1月30日付けの文書報告として、橋梁数463橋中、建設時期不明数は193橋(42%)まで低下したとの新たな内容の文書報告がありました。議員団は引き続きの調査徹底を求めました。

議員団からの問い合わせに対し、建設時期不明の橋梁数は全県的には草津市よりも多い実態があること。これは「橋梁が部分的に壊れてから修理するので、建設時期は重要でない」との認識が行政に存在し、運用されてきたということがあげられています。

近年、近畿地方においても大震災発生の可能性が指摘されています。ひとたび大災害が発生し、老朽化した橋梁等が破壊されれば、住民の生活は寸断され、深刻な事態を引き起こしかねません。安全点検・耐震化をすすめることが強く求められています。

<http://kusatu.jcp-web.net/>

久保あきお  
草津市青地町 975-9  
077-567-8604

## くらし・福祉・教育

篠原とも子  
草津市矢橋町 7-102  
077-532-2012

## 身近な生活相談所

藤井みえ子  
草津市南山田 468-2  
077-562-9822